

可児市議会事業別評価シート(外部評価シート)

外部評価者	NPO法人縁塾
-------	---------

1. 事業概要(事業実施前に議会で記入)

事業名	議会報告会
実施日	平成30年11月10日(土)・11日(日)・12日(月)
場所	久々利・姫治・広見・帷子・川合地区センター
目的	議会全体として審議の内容や過程等を市民に説明するとともに、市民から意見を伺い、議会運営の改善、政策提言等に反映させていく。
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・議会だよりを活用して、決算等に関する審議の内容や過程等をわかりやすく説明し、それに対する意見交換を行う。 ・今回の報告会のテーマ「災害への備え」に関する意見聴取・意見交換を行う。 ・その他、地域課題等について意見聴取・意見交換を行う。

2. 評価指標(事業実施前に議会で設定)

		29年度秋	30年度春	30年度秋
指標内容	単位	前々回目標	前回目標	今回目標
		前々回実績	前回実績	今回実績
成果指標	説明が分かり易かったと回答した割合	70	75	75
	意見交換して良かったと回答した割合	71	69	73
参考値	参加者数	70	75	75
		73	69	75
参考値	参加者数	100	100	100
		117	86	68

※成果指標(アウトカム)の設定が難しい場合は、参考値として活動指標(アウトプット)を記入。

3. 評価項目・評価結果(①事業実施前に項目を議会で設定、②事業実施後に一次評価を議会で記入、③一次評価後に二次評価を外部評価者で記入)

項目	一次評価(自己評価)		二次評価(外部評価)	
	評価理由等	評価	評価理由等	評価
事業の目的や内容、評価指標等が事前に全議員に共有されていたか。	事前に目的や内容、評価指標について説明され実施しているが、今後は評価も含めて十分理解された上で共有されることが必要である。	B	事業目的は全議員共有されていた(一次評価より)。当日の役割分担もされていた。	A
市民の参加を促すための周知活動は十分に行われたか。	予定どおり議会だより、CTK、FMらら、チラシ(掲示、回覧)によるPRで周知を行ったが、参加結果からその方法等については改めて検証する必要がある。	B	自治会への参加、ラジオ、その他広報などを活用している。ただ、幅広い年代には届いていない。それぞれの広報がどの程度参加に繋がっているか検証する必要がある。参加してほしい層が属する団体へのアプローチ、SNSの活用などが必要。	C
議員からの説明は市民にわかりやすいものであったか。	議会だよりを用いての説明は、アンケート結果からもわかりやすいという評価を得た。	A	議会だよりを使用した説明はわかりやすかった。前回(6月)は全体に向けてテーマに関してスライドを使用した情報提供があったので、今回も同様にテーマ(防災)に関する共通の情報提供があるとよかった。	A
市民が話しやすい雰囲気や進行により、多くの意見聴取に繋がったか。	少人数グループで行うことで、話しやすくそれぞれが意見を言える雰囲気が作られ、多くの意見聴取に繋がったものと考えられる。	A	回によってはテーブルが近く、声が聞こえにくい時があった。参加者が自治会の知り合い同士という場合があり、新規参加者は発言しづらい時もあった。順に話をふる、一人が話しすぎないようグランドルールを最初に伝えるなどの工夫があるとよい。また、出た意見を可視化できると、話し合いが活発化する(関連の話を思い出しやすい、話が重複しない)と思われる。手元でメモするのではなくテーブルに模造紙を置いてそこに書き込む、スクリーンでPCへのメモをうつすなど。	B
時間配分、テーマ設定等は妥当であったか。	全体の時間配分は概ね妥当であった。市民に身近で重要なテーマであったため、活発な意見交換、意見聴取が行えた。	A	全体の時間としてはちょうどよい。当日の時間配分はややグループによって異なった印象。(議会だよりの内容に関する質問時間とテーマに関する質問時間の取り方が異なった)自由質問の時間、テーマ質問の時間を全体で区切ってもよいと思われる。	A
聴取した意見について、市民への公表や、議会で取り組むべき課題が判断するなどの対応は行われたか。	すべての意見をHPで公表し、各常任委員会で取り組むべき課題を整理した。	A	意見のホームページ上での公開、各常任委員会で検討が行われている(一次評価より)。その後の取り組みをどう参加者および参加していない市民に周知するかが課題。	B
総合評価	市民に直接議会の情報を提供できる機会であり、また直接市民の意見や地域の課題を知る機会であるが、参加者が少ないこと、年齢層や性別に偏りがあることは今後の課題である。	B	前回同様参加者の年齢、性別の偏りが課題。また回によっては参加人数がかなり少なかった。休日に時間を割いて参加する子育て世代、若者はかなり少ないと考えられる。来てほしい世代の集まる団体に直接出向いて、説明・ヒアリングをする、何かイベントと合わせて行う(今回だと防災に関するイベントなど)、カフェで行うといった方法も考えられる。参加者は少人数でしっかり意見を話す、聞く時間がとれているので満足度は高い。評価指標に幅広く市民から意見を聴取できたかという観点で、年代別の参加人数をいれてもよいと考える。当日参加できない20~40代からの意見を事前にヒアリングしておいて、データとして提示できるなどの工夫があるとよい。	B

※評価区分は、「S「期待以上」、A「期待どおり」、B「概ね期待どおり」、C「期待に満たない」の4段階

4. 事業の分析・次期改善点等(二次評価後に議会で記入)

参加者が少ないこと、年齢や性別の偏りが課題である。来てもらいたい世代の集まる団体に直接出向き説明やヒアリングをしたり、何かのイベントと合わせて行うなど、実施方法の改善について検討が必要である。